

令和4年6月定例会一般質問

通告 6

質問 子ども食堂の支援について

答弁 できる支援を検討し積極的に協力していきます

5 番 佐久間 ふみ子 議員

【質問：佐久間 ふみ子 議員】

5 番、佐久間ふみ子でございます。子ども食堂について質問いたします。

少子化問題は、我が国の将来さらに社会経済に大きな影響をもたらしています。結婚、妊娠、出産、子供、子育てのための温かい社会づくりは重要な取り組みであり、特に子育て環境には子育て世帯を優しく包み込む社会機運の醸成が必要だと思います。

そのような中で、子ども食堂は今から 10 年前に東京都大田区にある気まぐれ八百屋だんだんの店主の方が、給食以外の食事がバナナ 1 本という子がいるという話を聞き、八百屋の一角に子ども食堂を開設されたことが始まりだということです。

子ども食堂はその後、子ども貧困対策から子育て支援、地域づくりと幅広い住民ニーズを受け、コロナ禍であっても急速に増え続け、全国でその数はこの 5 年で 18 倍以上の 6000 カ所にも広がっています。このことは子ども食堂を運営する立場、利用する立場、双方のニーズの多さの表れであると考えます。

先日、新聞で釧路、根室管内の子ども食堂と地域食堂 22 団体へ寄贈の報告が紹介されていました。それを見て中標津町にも子ども食堂があることを初めて知ったという方がいらっしゃいます。私も詳しいことはわかりませんでした。

本町では 2 年前よりボランティアサークルの皆さんが中心となって子ども食堂を開設し地域で活動されています。年に 10 回程度の活動を通して来てくれた子どもたちや保護者の方と楽しく交流しているとのこと。ボランティアサークルの皆さんは開催の準備に当たり、さまざまな手配など運営していく上で困難なこともあるが、さまざまな事情を抱えた子どもたちとつながっていくことが大切なんですとお話しされており、将来的に居場所づくり、学習支援など、子どもの支援について活動を模索していることも伺いました。

今回、ボランティアサークルの皆さんからお話を伺って子どもの貧困対策はもとより、



地域活性化や交流の場、子どもの見守りの場として、大事な役割を担っていると強く感じました。

第7期中標津町総合計画の主要施策で子育て支援、応援する体制づくりと子供の居場所づくりが掲げられています。子ども食堂の活動は両方の施策に合致しています。

そこで町長にお伺いいたします。本町として子ども食堂をはじめとする子どもの居場所の新規開設に向けた環境づくりや開設後の施設が安定して継続的に運営されるための具体的な支援策を策定し、多くの子どもたちが支援を受けられる体制を整備していくべきと思いますが、町長のお考えをお聞かせください。

【答弁：町長】

佐久間議員御質問の子ども食堂の支援について御答弁申し上げます。

近年、全国的にも注目されている子ども食堂は子どもへの食事の提供、学習支援を含めた子どもの居場所づくり、多世代交流、生活困窮家庭への支援等目的はさまざまであり、運営主体は個人や民間団体、NPO法人等が主に実施をしており、地域でできることを自主的にボランティア組織を立ち上げ実施しております。

佐久間議員より御説明がありましたとおり、当町におきましても、ボランティアサークルが令和2年7月から子ども食堂を開設し、開設当初は町内会館において実施しておりましたが、場所が手狭であることから児童館を利用させてほしい旨要望がありまして、令和2年12月から児童館において実施しております。

子ども食堂の活動は児童の健全育成に寄与することから、児童館の無償貸し出しや、国等で行っている食材供給事業等の情報を提供するとともに、町内の食材を提供したいという企業の相談窓口となってボランティアサークルに紹介しており、今後も町として協力していきたいと考えております。

また、子どもの居場所づくりは、第7期中標津町総合計画、子育て支援の充実の中で主要施策の大きな柱として掲げており、現在児童館を中心とした事業を展開し、子どもがいつでも児童館に来やすい環境づくりを行っております。その中で児童館では遊びの場だけではなく、学習支援としてボランティアサークルが寺子屋を開設し、子どもたちと地域の方々の交流を行っており、協力したい、参加してみたいという方がいた場合は積極的に声かけし参加していただいております。

以上のように、子どもの視点に立った事業を行っているところですが、新規開設等を希望する団体等から相談がありましたら、活動目的や事業形態を確認の上、町ができる支援を検討し積極的に協力をしていきたいと考えておりますので、御理解を賜りますようお願い

いします。